

1. 開口部の補強鋼材の選定は設計者にてご検討の上、決定して下さい。
2. 選定に際しては納まりも併せてご検討下さい。山形鋼を選択される場合は、下記の点に留意して下さい。

- **シーリングの打ち代などの納まりを考慮願います。**

パネル厚さを考慮し、山形鋼の一边がパネルの厚みの中に納まるよう注意して下さい。

例えば、厚さ100mmの外壁パネルの場合、シーリングの打ち代などを考慮するとL-75まではパネル裏面に接して使用できますが(図-1参照)、より大きなサイズが必要な場合には、シーリングの打ち代や補強鋼材の接合方法、内装材との取り合いなど、納まりを検討する必要があります。

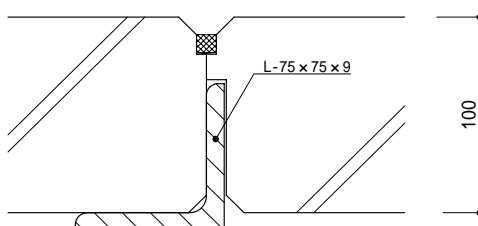


図-1 山形鋼を用いた補強鋼材の納まり例

- **ALC 専門工事業者で扱える山形鋼のサイズは、一般に L-75 x 75 x 9 までです。**
これを超える場合は、基本的に角形鋼管等で補強した上で小さい山形鋼を用います。
- **連窓開口や排煙窓はスパンが大きく、山形鋼では強度が不足する場合があります。**
この場合は間柱・耐風梁を設け、開口補強鋼材からの荷重を間柱・耐風梁に伝達させます。

3. 部材選定の例 ($l_1 = 2800\text{mm}$ の場合)

l_2 幅 (mm)	縦壁	横壁	部材	風圧力 (N/m ²)			
				800	1200	1600	2000
600			A 材	L-50 x 50 x 6	L-50 x 50 x 6	L-65 x 65 x 6	L-65 x 65 x 6
			B 材	L-50 x 50 x 6	L-50 x 50 x 6	L-50 x 50 x 6	L-50 x 50 x 6
1200			A 材	L-65 x 65 x 6	L-65 x 65 x 6	L-65 x 65 x 6	L-75 x 75 x 6
			B 材	L-50 x 50 x 6	L-50 x 50 x 6	L-50 x 50 x 6	L-50 x 50 x 6
1800			A 材	L-65 x 65 x 6	L-75 x 75 x 6	L-75 x 75 x 6	L-75 x 75 x 9
			B 材	L-50 x 50 x 6	L-50 x 50 x 6	L-50 x 50 x 6	L-65 x 65 x 6

ご検討にあたっては、JASS21 ALC パネル工事:2005の部材算定例等を参照下さい。